# 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】

| | |
|---|---|
| １．事故・ヒヤリハットの別 | 事故 |
| ２．体験した事例の名称 | 救急出動中の救急車と普通乗用車との接触事故 |
| ３．体験した事例の中心的要素 | 救急出動中にスーパーの駐車場にて、救急車を方向転換させようと、空いた駐車スペースに後進したところ、普通乗用車が駐車するため進入してきて、救急車右後方と乗用車右前方とが接触。<br>幸い相手の運転手には相手の運転手には怪我はなく、救急案件も無事に遂行できた。 |
| ４．体験した事例の原因・理由 | 当日は大雨で視界不良。サイドミラーでもはっきりと確認ができない状態だった。方向転換しようとした場所は、駐車中の車両は無く、５～６台分のスペースがあった為、機関員のみでゆっくり方向転換しようとしていたところに車が進入してきた。サイドミラー及びバックモニターで確認しながら後進していたが死角があった。 |

## 【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|---|---|
| １．体験した事例の直接的な原因 | |

## 【体験した事例について】

| | |
|---|---|
| １．発生日時 | 平成　20 年 6 月 11 日　　午後　6 時頃 |
| ２．発生した当時の天候 | 雨 |
| ３．発生した活動現場 | 屋外：スーパー駐車場内 |
| ４．体験した事例の種類 | |
| ５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | |
| ６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか） | 交通事故 |
| ７．事例体験時の活動 | 救急、現場活動初期　[　] |
| ８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか | 応急処置 |
| ９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | |

１０．事例体験者の属性（回答者は当事者Ａ）

| | |
|---|---|
| ○当事者Ａ | 年齢[ 32 ]歳、 勤続年数[ 9 ]年、 現場経験年数[ 2 ] 年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ ] |
| ○当事者Ｂ | 年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、<br>同様の活動 [ ]、 任務 [ ] |
| ○当事者Ｃ | 年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、<br>同様の活動 [ ]、 任務 [ ] |
| その他<br>（当事者が４人以上の場合） | |

１１．事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|---|---|---|---|
| 経過１ | 機関員が | 一人で後進をした | |
| 経過２ | | | |
| 経過３ | | | |
| 経過４ | | | |
| 経過５ | | | |
| 経過６ | | | |
| 経過７ | | | |
| 経過８ | | | |
| 経過９ | | | |
| 経過 10 | | | |

## 【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

| |
|---|
| 集中力、注意力がなかった。周囲の視界が確保できていなかった。後方からの監視が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。 |

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

| | |
|---|---|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

ｂ．注意力が欠如していた

| | |
|---|---|
| ・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

ｃ．経験・知識が不足していた。

| | |
|---|---|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | いいえ |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

ｄ．心身の不調があった

| | |
|---|---|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

〇装備・資機材について

ｅ．資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---|---|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

〇活動環境について

ｆ．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---|---|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | はい |

ｇ．行動しにくい環境だった。

| | |
|---|---|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | はい |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | |

ｈ．足場が悪かった。

| | |
|---|---|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

〇指揮・管理について

ｉ．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|---|---|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

ｋ．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|---|---|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | はい |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

〇その他

ｌ．その他の理由があった。

| |
|---|
| いいえ |

## 【事故発生後の取り組みについて】

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

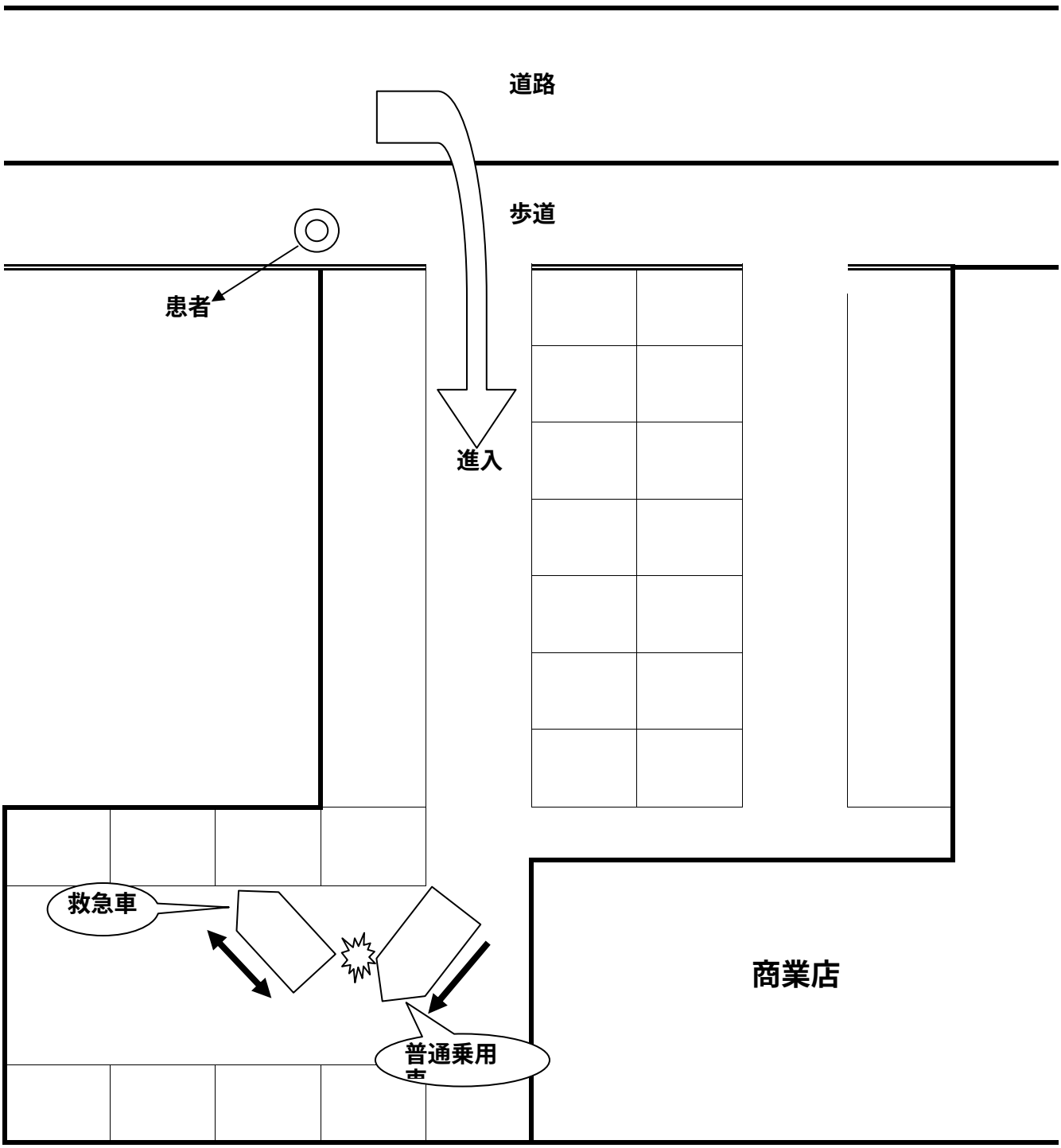
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

緊急運行中（特に後進時）には誘導員をつけるように周知していたのだが、このような事故がおきてしまったので、さらなる注意を払うように周知徹底していくように指達をおこなった。

○指揮・情報伝達の対策について


道路
歩道
患者
進入
救急車
商業店
普通乗用車